

令和元年度 1学期終業式（定時制） 校長式辞

みなさん、おはようございます。

昨日、京都で33人の尊い命が奪われるという、大変痛ましい事件が起こりました。ガソリンをまいて、火をつけた犯人に対して、非常に腹立たしい気持ちを抱いています。

また、世の中には、病気や事故などで大切な人を亡くした人もいます。私も6月5日に103歳のおばあちゃんを亡くしました。やさしいおばあちゃんだったので、さびしい思いでいっぱいです。

そこで、今日は、「でんでんむしのかなしみ」という詩を紹介します。この詩は、愛知県の知多半島にある半田市出身の児童文学作家 新美南吉 さんという人が書いたものです。「ごんぎつね」「手袋を買いに」という絵本が代表作品で、かわいらしい「きつね」の絵が描かれた心温まる絵本です。その新美さんが書いた詩「でんでんむしのかなしみ」を今から読みます。 【著作権の関係で詩は掲載できません】

誰もが、何かを背中に背負っています。自分では何ともならないと思っていたことも、この「でんでんむし」のように友だちに相談すれば、気持ちが落ち着くこともあるでしょう。また、何ともならないことを背負いながらも、覚悟を決めて頑張ろうとする人もいるでしょう。

1学期始業式の式辞で、ラグビーのワールドカップが9月に日本で開催されるので、「GO GO FORWARD！」「行け 行け 前へ！」を合言葉にすることを提案しました。また、「とりあえず、挑戦しよう」ということも話しました。誰も失敗はしたくない。失敗は怖い。だからといって、失敗を恐れて行動しなければ前には進まない。それならば、とりあえず、やってみよう。

この1学期の間「つらいこと、しんどいこと」から逃げないで、立ち向かっていくことはできたでしょうか？ 今、「あまりできなかった」と思った人、本当にできなかったでしょうか？ あなたが頑張ったことは、ひとつありませんか？

授業が始まる前に職員室の前で学習をしている生徒がいました。

地域貢献活動で一生懸命に草を抜いている生徒がいました。

グラウンドや体育館で部活動の練習に熱心に取り組んでいる生徒がいました。

夏休みに学校に来て、勉強をしようとしている生徒もいると聞いています。

「つらいこと、しんどいこと」から逃げたときもあったかもしれませんが、しかし、ひとつでも立ち向かったことがあれば、前進です。

「GO GO FORWARD！」「行け 行け 前へ！」という合言葉のとおり、少しずつでも、一步一步、前へ進めるよう、前向きな夏休みを過ごしてほしいと思っています。

最後に、最近読んでおもしろかった本を紹介합니다。それは、「この川のむこうに君がいる」という、今年の読書感想文コンクール課題図書の一冊です。

物語は、東日本大震災で兄を亡くした主人公が、埼玉県に移住、東京の高校に入学するところから始まります。福島県から移住してきたこと、兄を亡くしたことを隠したい、同情されたくないという思いを強く抱きながら高校生活を送る主人公。そんな彼女が、吹奏楽部の先輩の演奏に惹かれ、楽器を夢中に練習するうちに、少しずつありのままの気持ちを伝えることができるようになる。そんな主人公の心情の変化、人間模様を描いた作品です。「この川のむこうに君がいる」是非読んでみてください。

それでは、9月2日の2学期の始業式で元気な皆さんに会えることを楽しみにして、1学期・終業式の式辞を終わります。